



湾岸・アラビア半島地域ニュース

イエメン：マアリブ州でのテロ事件

(7月3日付現地報道)

1. 内務省筋の発表によると、7月2日午後5時半、マアリブ州ビルキス神殿でテロ事件が発生し、スペイン人旅行者7名及びイエメン人2名(ガイド、運転手)が死亡、スペイン人6名、イエメン人2名が負傷した。負傷者はマアリブ州及びサナア州の病院に搬送された。スペイン人旅行者13名が4台の車に分乗し、ビルキス神殿を出発しようとしたところ、1名の自爆犯が乗った1台の車による自爆テロ攻撃があった。
2. サレハ大統領の発言(3日)
 - (1) 事件の約4日前から爆弾テロの情報を入手していたが、いつどこで行われるか不明で、石油施設、外国機関等の施設に対する警備を強化していた。マアリブ州のビルキス神殿でテロ事件が発生するとは思ってもよらなかった。
 - (2) 被害が大きかったのは、旅行者グループが乗った車の車間距離が規則に反して十分にとられていなかったことが理由である。
 - (3) 事件に使用された車両は古い四駆車であり、自爆犯は1名で、イエメン人ではなく他国から来たアラブ人と考えられる。
3. ナビール・ファーキフ観光相は2日、マアリブ病院を急遽訪問し、「数名のスペイン人観光客は重体であることから、速やかにサヌアの病院に移送する予定である。観光省内部に本件タスクフォースを設立し、観光省としてもフォローする」と述べた。
4. 「イエメン・オブザーバー」紙(3日付)
 - (1) カウシー内務次官は、「現時点での調査によれば、今回のテロ事件の背後にはアル・カーイダが存在している可能性があると共に、他のテロ・グループが関わっている可能性もある」と述べた。
 - (2) 政治評論家のサアド・サーベット氏は、「事件の手法はアル・カーイダとの繋がりを示唆している。過去にイエメンでは自爆テロは行われておらず、これまで発生したテロ攻撃(注：USS コール号及び仏国ランブール号に対する攻撃)は、アル・カーイダによるものである。6月30日の時点でアル・カーイダが自爆攻撃を予告する声明を出していた」と述べた。
 - (3) 2006年2月にサヌアの中央政治刑務所から脱獄した容疑者の一人アブー・バシール・ナシール・アル・ワヒシは、先週ネット上に音声テープを掲載し、同音声テープの中で「私は Al-Qaeda of Jihad in Yemen の代表に任命され、政府軍への投降を拒否する。為政者達の無知な試みはこれまで一度も成功したことはない」と述べた。

本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799